**修士論文　2015年度（ 平成27年度）**

**住居、コミュニティー間の相互分析による**

**サスティナブルデザイン手法の構築**

**~ ハノイ郊外開発のケーススタディーから ~**

**論文要旨**

建築設計や都市設計のデザインプロセスは環境条件や社会背景といった考慮事項の多くが重複して いるが、これらのデザイン手法は独立した学問領域として捉えられ、従来は別々にデザインが行わ れている。設計プロセスで建築 家や都市計画家は、多くの場合前提としてある複雑な社会・環境条 件に対してのデザインを行うためにお互いに協力し、立場の違いから対立を繰り返し行っている。 一方、サスティナブルデザインは近年社会的にも注目されており、様々な研究分野に基づいて定義 されている。CO2 排出量の40％が建物による排出であり、持続可能なサスティナブルデザインのために重要な設計要因となっている。

本研究においてはこれらのサスティナブルデザイン手法を、スケールの異なる個々（住居）と集団（コ ミュニティ）レベルの相互分析から、特定の地域の持続可能な設計計画を解析することにより研究 した。総合的なサスティナブルデザイン手法を考える際に、三つの目的である「LOW IMPACT」、「HIGH CONTACT」、および「WELL-BEING」を、次の七つのデザイン指標を用いて検証した：local materia（l ロー カルな素材）、passive design（パッシブデザイン）、symbiosis（共生性）、desirable place to live（親 しまれる場所）、walkability（歩きやすさ）、entrepreneurship（起業家精神）、flexibility（柔軟性）。 これらはベトナム、ハノイ郊外に位置するエコパーク開発地区にて、ショップハウス住居のプロト タイプをデザインする際に分析を行った。

サスティナビリティという共通の目標を有することにより、住居、コミュニティの相互作用は、社 会的、ハノイの持つ独特な社会・環境条件に合わせた総合的なデザインへと構築可能となる。これ と同様に住居、コミュニティ間のインタラクティブな相互分析デザインプロセスを行うことによって、その地域の社会的背景を考慮した、持続可能な設計手法のプロトタイプとなった。

Keywords : 1.サスティナブルデザイン手法 2.住居 3.コミュニティー 4.相互分析 5. ハノイ郊外開発

慶應義塾大学大学院　政策・メディア研究科 柳田舞